

## エゾベニヒラタムシ

CGCの森に立てるシラカバの標柱に横山理事長揮毫の文字を刻む作業をしていましたら、手元に赤い虫か這ってきました。しばしば見かける虫ですが、この際しっかり調べることにし、写真に収めました。4月24日12時24分と記録されました。



調べてみるとこの虫は見かけによらずかなり凶暴な虫でした。和名をエゾベニヒラタムシと

いいます。肉食性でキクイムシなどの木質を食べる虫たちの幼虫などを狩っているとのこと。そのため



朽木の樹皮の裏の狭い空間でも行動できるようにべったらい体型をしているのです。上からの写真ではわかりませんが、横からの映像でご確認ください。見事な薄さではありませんか。幼虫にしてもムカデを思わせる形で顎も凶器の様相です。名前の頭にエゾがついていますが、分布は広く北海道から南は九州までですが、九州では高山地帯で確認された希少種にされています。色と形のそっくりなエゾとつかないベニ

ヒラタムシという虫もありますが、そいつは甲羅に光沢があるので区別できるようです。大きさもエゾよりこころもち小さいようです。

澄川で飛んでするのをよく見かけます。肉食なので獲物を求めて頻繁に移動する必要があるのでしょう。やたらと目立つ赤い羽根色ですが、嫌な臭気を発して天敵を撃退するベニボタルに擬態しているのだそうです。体型が似ているホタルたちやジョウカイボンたちも肉食の虫たちでした。危害され



る恐れはありませんが、見かけによらない虫たちであります。

この日澄川基地の雪解け水溜まり湿地ではエゾアカガエルの声が盛んでして、そちらの方向に向ってびよんびよんはねて移動するエゾアカガエルが焚き火の竈の近くを通りすぎました。やっと春本番が近づいたようです。